

2022年6月11日  
関西言語学会第47回大会

have it that 構文における主観化のプロセス  
—現代英語の主語名詞句に見られる特徴に着目して—

同志社大学大学院  
清水京香  
(kyoka.shimizu29@gmail.com)

1

# 1. はじめに

2

2

# 1. はじめに


## 本発表の分析対象

(1) a. Rumor has it that she is getting married.

「うわさによれば彼女は結婚するそうだ。」

b. Legend has it that a monster lives in that lake.

「伝説によれば怪物があ湖に住んでいるということだ。」

 「have it that 構文」と呼ぶ

3

3

# 1. はじめに

## 本発表の分析対象

(1) a. Rumor has it that she is getting married.

「うわさによれば彼女は結婚するそうだ。」

b. Legend has it that a monster lives in that lake.

「伝説によれば怪物があ湖に住んでいるということだ。」

形式 : NP HAVE it (that) S

意味 : that 節で示される命題内容は、主語名詞句で示される情報源から得た。

4

4

# 1. はじめに

## 類似する構文

(2) I have it on good authority that we'll be paid for our work next week.

「来週賃金が出ると確かな筋から聞いた。」

→ 情報源は前置詞句で示される。

5

5

# 1. はじめに

## 類似する構文

(2) I have it on good authority that we'll be paid for our work next week.

「来週賃金が出ると確かな筋から聞いた。」

→ 情報源は前置詞句で示される。

本発表では、**主語名詞句**で情報源を示すhave it that構文のみを扱う。

6

6

# 1. はじめに

## 本発表の目的

現代英語における have it that 構文 (以下HITC)では、**主語名詞句には、特定の名詞が生起するという顕著な傾向**が観察される。本発表では、このHITCの特徴が成立した背景を通時的観点から説明することを目的とする。

## 本発表での分析

HITCの現代英語に見られる特徴は、Traugott (1989, 1995) が指摘する「**主観化**」という変化によって、当該構文が意味変化した結果を反映していると仮定し、その意味変化のプロセスを示す。

7

7

# 1. はじめに

## 本発表の構成

1. はじめに
2. HITCに関する先行研究の紹介・問題点の指摘
3. 主観化を用いたHITCの分析
4. まとめ・今後の課題

8

8

## 2. 先行研究の紹介 問題点の指摘

9

9

### 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ Brugman (1988, 1996)

HITCでは、虚辞の *it* が *have* の直後に義務的に生起し、省略ができない。

(3) a. I believe (it) that he said it.

b. I like (it) that he sent me flowers. (Brugman, 1996)

(4) Rumor has \*(it) that he said it. (Brugman, 1996)

10

10

## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ Brugman (1996)

- 主語名詞句は「著者・作者」を指示できない。

(5) ?Glenn Dickey had it that Nolan Ryan was pitching this week.

(Brugman, 1996)

- HITCの主語には、信憑性が問題となるような名詞句が生起し、  
話者の疑念を表す語用論的効果がある。

(6) #The truth has it that the earth is round.

(7) The Bible has it that woman was made from man.

(Brugman, 1996)

11

11

## 2.1 have it that 構文共時的特徴

➤ 五十嵐・本多 (2014)

HITCは、「情報源」という証拠性 (evidentiality) を表すために固定化した表現であり、主語名詞句がthat節内の情報の情報源であることを表す。

- (8) [AとBはリンカーンに関するドキュメンタリー映画について話している。ただしBはその映画をみていない]

A: I just watched a really interesting movie about the life of Abraham Lincoln.

B: Ahh, the poor guy was shot right in the middle of a restaurant.

A: Restaurant?! The movie has it that he was shot in a theatre.

(五十嵐・本多, 2014)

12

12

## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ 五十嵐・本多 (2014)

HITCは、「情報源」という**証拠性** (evidentiality) を表すために固定化した表現であり、主語名詞句がthat節内の情報の情報源であることを表す。

(8) [AとBはリンカーンに関するドキュメンタリー映画について話している。ただしBはその映画をみていない]

A: I just watched a documentary about the life of Abraham Lincoln.

B: Ahh **本当に「情報源」なら、どんな情報源でも同等に示せるのか？**

A: Restaurant?! The movie has it that he was shot in a theatre.

(五十嵐・本多, 2014)

13

13

## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ Gómez-Moreno (2014)

- BNCを用いたHITCについての共時的研究。
  - HITCは、その構成要素からは得られない意味や機能を持ち、特定のパターンを示す構文である。
  - 330の事例を「コロストラクション分析」を用いて分析。
- HITCの主語名詞句には、**特定の名詞が生起する傾向**がある。

14

14

## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ Gómez-Moreno (2014)

(9) a. Rumour has it that Stevo signed some of his first acts.

b. Legend has it that the high altar marks spot where Harold died.

c. Word has it that an unlikely combination of forces have come together in a bid to establish a new standard.

(BNC; cited in Gómez-Moreno, 2014)

→ 不特定名詞が無冠詞・単数で生起する事例が高頻度でプロトタイプ

(10) Bernie would always have it that he had known Malcolm since he was a mod in the sixties. (BNC; cited in Gómez-Moreno, 2014)

→ 固有名詞や人称代名詞が主語となる事例は低頻度

15

15

## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

➤ Gómez-Moreno (2014)

Table 3. Collostructional strength of the subject within the HITC. The ten most attracted lexemes

Lexical units	Observed frequency (subject)	Coll. strength	Relation
rumour	80	299.5	attraction
legend	63	233.3	attraction
tradition	16	40	attraction
proverb	7	26.3	attraction
myth	9	25.2	attraction
gossip	8	25	attraction
wisdom	6	16.6	attraction
theory	8	14.7	attraction
folklore	4	13.5	attraction
mythology	4	12.7	attraction

16

16



## 2.1 have it that 構文の共時的特徴

### ➤ Gómez-Moreno (2014)

Table 3. Collostructional strength of the subject within the HITC. The ten most attracted lexemes

Lexical units	Observed frequency (subject)	Coll. strength	Relation
rumour	80	299.5	attraction
legend	63	233.3	attraction
tradition	16	40	attraction

HITCは、主語名詞句で情報源を提示するという点で「証拠性」を示す構文であるが、現代英語では、**信憑性が低い情報源**を示すという顕著な傾向がある。

folklore	4	13.5	attraction
mythology	4	12.7	attraction

17

17

## Research Question

現代英語においてHITCが、具体的な情報源ではなく、  
信憑性が問題となるような情報源を主語とする、という  
顕著な傾向はどのように生じたのか？

➡ HITC の成立過程から考えてみる

18

18

## 2.2 have it that 構文の通時的変化

➤ 河野 (2019, 2020)

- HITCは17世紀頃から観察され、当時は**聖書・格言などの具体物**を主語にとる引用的構文だった。

**Text タイプ** (e.g., text, the Bible, scripture)

(11) ...the Text hath it, that Wrath is gone out from the Lord, ...

(EHBC, 1626; cited in 河野, 2019)

**Adage タイプ** (e.g., proverb, axiom, slogan)

(12) ... for as our English proverbe hath it, That there is no service like to the service of a King, ...

(EHBC, 1647; cited in 河野, 2019)

19

19

## 2.2 have it that 構文の通時的変化

➤ 河野 (2019, 2020)

- 現代英語に近づくにつれて、必ずしも明文化されていない**伝承や噂話**といったより**抽象概念**を主語にとる伝聞情報構文へと拡張していった。

**Myth タイプ** (e.g., myth, legend, tradition)

**Idea タイプ** (e.g., wisdom, theory, belief)

**Rumor タイプ** (e.g., rumor, gossip, whisper)

現代英語において  
プロトタイプ

➡ 主語名詞のタイプにおける **Text > Adage > Myth, Idea, Rumor** という出現の順序は**情報源の抽象化**の過程を反映している。

20

20

## 2.2 have it that 構文の通時的変化

➤ 河野 (2020, p.93)

『17 世紀頃の HITC では典型的に具体的かつ特定のな名詞が主語位置に生起していたが、現代英語に近づくにつれ抽象名詞が生起するようになり、現代英語ではむしろ抽象名詞句が主語の事例が中心になっている。』

21

21

## Research Question

それでも、「現代英語のHITCでは、Rumorなど信憑性の低い情報源が主語名詞句として生起する」という顕著な傾向が成立した背景は明らかではない。

➡ 本発表では、「主観化」を用いた説明を提案

22

22

## 3. Traugott の主観化を用いた HITCの分析

23

23

### 3.1 Traugottの主観化

#### 主観化 (subjectification)

- Traugott (1989, 1995) の一連の研究で指摘されている意味変化。
- 意味が話者の命題に対する**主観的な信念や態度**に基づいて次第に変化する語用論的・意味論的プロセス。
- **語用論的推論**が繰り返され、言語表現の意味として組み込まれることによって起こる。

24

24

## 3.1 Traugottの主観化

### 主観化 (subjectification)

例) *while* 時間関係 → 対比関係

(13) a. Mary read *while* Bill sang.

2つのイベントの同時性という「時間関係」を示す。

b. You were watching TV *while* we were working hard.

時間関係に加えて、2つのイベントのコントラストが推論されて「対比関係」という意味が導かれる。

c. Mary liked oysters *while* Bill hated them.

2つの状況の「対比関係」を示す。

25

25

## 3.1 Traugottの主観化

### 主観化 (subjectification)

例) *while* 時間関係 → 対比関係

(13) a. Mary read *while* Bill sang.

2つのイベントの同時性という「時間関係」を示す。

b. You were watching TV *while* we were working hard.

時間関係に加えて、2つのイベントのコントラストが推論されて

言語表現そのものの意味ではない解釈が推論されて出てくる。  
さらに、それが意味として取り込まれていく。

2つの状況の「対比関係」を示す。

26

26

## 3.2 have it that 構文における主観化

### 「話者の情報への疑念」の推論

HITCでは、「引用・伝聞情報を示す」という意味から、話者の主観的態度である「**情報への疑念**」が推論される。

(14) Popular mythology among mothers has it that the first child is  
always the most “difficult”. (BNC; cited in Gómez-Moreno, 2014)

2つの解釈:

- ① 「ある俗説で言われている情報の提示」という解釈
- ② 「話者はその情報の信憑性に対して懐疑的だ」という推論に基づく解釈

27

27

## 3.2 have it that 構文における主観化

Reported speech による distancing effect (Aikhenvald, 2004)

- 間接的に得た情報であることを明示することで、話者はその情報から距離を取り、その情報への自分の責任を取り除く(コミットメントの調整)。
- 話者は、「情報の信憑性に関して保証できない」という主観的態度を含意として持たせる。
- 聞き手は、「その情報は信頼性に欠けるものだ」と推論する。

28

28

## 3.2 have it that 構文における主観化

Reported speech による distancing effect (Aikhenvald, 2004)

- HITCの使用により、話者は「この情報の信憑性は保証しない」という主観的態度を含意させる。
- それを聞いた聞き手は、「その情報は信憑性が低く、信頼性に欠けるものだ」と推論する。

➡ この話者の含意・聞き手の推論から導かれる「**情報への疑念**」が HITC自体の意味として組み込まれていった。

29

29

## 3.2 have it that 構文における主観化

主語名詞句に見られる変化

- 主観化が進むにつれて、次第に**信憑性の低い情報源**が主語名詞句として生起するようになる。
- Text タイプから Adage タイプへの広がりは、抽象化というよりも、**情報源の信頼性の低下**として捉えることができる。

Textタイプ



Adageタイプ

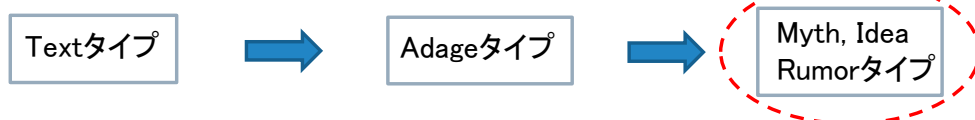
30

30

## 3.2 have it that 構文における主観化

### 主語名詞句に見られる変化

- Myth, Idea, Rumorタイプへの広がりも、**情報源の信頼性の低下**として捉えることができる。
- 現代英語での顕著な傾向は、情報源の提示としての意味よりも、「**話者の情報への疑念**」を示す意味が強まっていることを示唆。



31

31

## 3.2 have it that 構文における主観化

### 話者の情報への懐疑的態度を示す構文へ

現代英語では、HITCで示される情報を話者が真実として見なしていない事例が観察される。

(15) Rumor has it that they aren't hostages, but I think they are.

(COCA; cited in 河野 2020)

(16) Listen, Scott, rumor has it that you know nothing about plants, and I couldn't believe this. I mean, you're such an erudite guy...

(COCA)

➡ 情報から完全に距離を取り、「信じていない」ことを明示化。

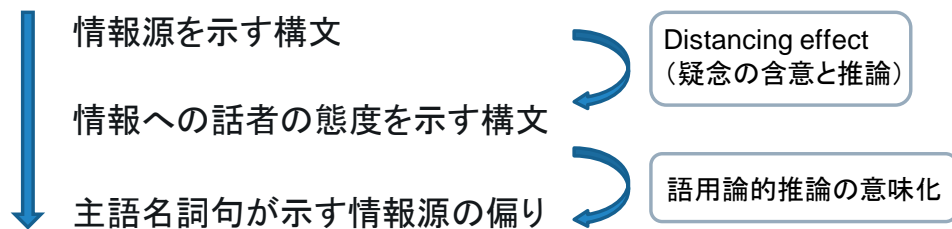
32

32



## 3.2 have it that 構文における主観化

情報源を示す構文から話者の疑念を示す構文へ



HITC は、**話者の情報内容への疑念を表す**という意味を獲得しており、現代英語では、主語名詞句として不確かさを示すような情報源が生起しやすい、という顕著な傾向が生まれた。

33

33

## 4. まとめ・今後の課題

34

34

## 4. まとめと今後の課題

### まとめ

- HITCは、主語名詞句で情報源を示す構文である。
- 元々は聖書や格言などの具体的な情報源を示す構文であった。
- 現代英語では、Rumor, Legendなどの信憑性が低い情報源が主語名詞句に生起しやすい、という顕著な傾向がある。

➡ この顕著な傾向はどのように生じたのか？

35

35

## 4. まとめと今後の課題

### まとめ

- HITCの主語名詞句に見られる変化は、「主観化」という意味変化によって、HITCの意味が変化していることを示唆している。
- 「情報源の提示」から「話者の情報への疑念を示している」という推論が生じ、HITCの意味として取り込まれている。
- 次第に情報源の信頼性が低下し、現代英語では、不確かさを象徴するような情報源が生起する、という顕著な傾向が生まれた。

36

36

## 4. まとめと今後の課題

### 今後の課題

- HITCの主観化について、コーパスを用いた仮説の検証
- 類似構文との関連性を探る

前置詞句で情報源を示す構文:

(17) I have it on good authority that we'll be paid for our work next week.

「確かな筋から来週賃金が出ると聞いた。」 (= (2))

37

37

## 参考文献

- Aikhenvald, A. Y. (2004). *Evidentiality*. Oxford; Tokyo: Oxford University Press.
- Brugman, C. M. (1988). *The syntax and semantics of 'have' and its complements*. University Microfilms International.
- Brugman, C. M. (1996). Mental spaces, constructional meaning, and pragmatic ambiguity. In G. Fauconnier & E. Sweetser (Eds.), *Spaces, worlds, and grammar* (pp. 29-56). Chicago: University of Chicago Press.
- Gómez-Moreno, P. U. (2014). The have-it-that construction: A corpus-based analysis. *International Journal of Corpus Linguistics*, 19(4), 505-529.
- 五十嵐啓太・本多正敏 (2014). 「証拠性を表す have it that 構文」『英語語法文法学会 第22回大会予稿集』pp. 42-47.
- 河野亘 (2019). 「have it that 構文と非人称 it 主語構文の連続性」『日本認知言語学会論文集 第19巻』pp. 134-145.
- 河野亘 (2020). 『英語の補文構造に関する認知言語学的研究—エビデンスシャリティに関わる現象を中心に—』  
博士論文: 京都大学
- Traugott, E. C. (1989). On the rise of epistemic meaning in English: an example of subjectification in semantic change. *Language*, 57, 33-65.
- Traugott, E. C. (1995). Subjectification in grammaticalisation. In D. Sterin & S. Wright (Eds.), *Subjectivity and subjectivisation: linguistic perspective* (pp. 31-54). Cambridge: Cambridge University Press.

38

38